

【市民の声への理解について】

<谷口八> 新市長として、まず市民が何を求めているかを確認してほしい。説明するという前に、市民の声を聞いてほしい。

<市 長> 考え方が違うわけではない。今まで以上に市民の声を聞く。自分でも確かめたい。もちろん職員等を通じて聞くこともあるが。

<谷口八> どうしたら意見が反映されるかだ。「十分に説明する」と言われるが、一方的な説明でなく、その前に自分で直接つかむ。そのようなプロセスが足りない。

<市 長> 出前説明会もざっくばらんに、一方的ではなく、双方向で意見を出し合うようにしてきたつもりだ。

【庁舎整備の方針について】

<浦 木> 庁舎整備の今後の進め方は？位置条例の問題もあるが。

<市 長> 議会の特別委員会でも4年かけて議論。異例の状況。合併特例債の期限の問題もあり、問題を先送りできない。第4次特別委員会は31回も議論してきている。それを無視してこちらで進めるということとはできない。議員の任期もあり9月末には方向が決まると思う。位置条例の問題もあり、事後に位置条例を出すこともできないわけではないようだが、適切な時期に出したい。

(この下線部分は市庁舎問題の肝心な部分であるが、市長の発言は非常にあいまいな内容で、意味不明瞭であった。しいて解釈すれば、「事後に・・・」とは、市執行部が「新築移転のための具体的内容・予算を算定する実施設計を終えた段階で、新築移転に関する位置条例の賛否を市議会に問うこともできるようだ」、ということではないだろうか。要するに、「執行部で新築移転への流れをどんどん進めて既成事実化し、その流れで市議会の抵抗を突破してしまいたい」、との意向を示しているのではないか。)

<浦 木> 前市長は住民投票の結果を受け入れると表明された。それをなぜか議会に丸投げした。市長として主体性を持ってやるべきだったと考える。

<市 長> 市長と議会はよく車の両輪と言われるが、こちらが先走ってはうまくいかないこともある。

<谷口八> 議会との関係と言われるが、執行部として前面に立って進めるべき。説明会は、厳しく制限され、一人3分、再質問は出来ず、議論が保証されなかった。

<市 長> 説明会は怒号が飛び交う状況もあり、いい意見交換の場とは言えなかった。

<浦 木> これまでの説明会では、関連事業の内容や費用などがきちんと示されなかった。そういうところも今後きちんと示してもらいたい。

【市財政について】

<谷口タ> 市民には市の財政についての不安も強い。人口減少、それに伴い税収も減少。国の財政も厳しく、交付税も一本算定の問題もあり大幅に削減される。

<市 長> 将来への不安、何となく不安だということがある。財政運営は容易ではないが、破たんするということはない。

<谷口タ> これまで市は借金の状況などをきちんと公開しなかった。示すのは一般会計のみで特別会計、企業会計などはだいぶんたってから、ようやく地域懇談会の場で答えたという状況。

【公共施設の更新問題】

<浦 木> 庁舎の建設費も現在は人件費や資材の高騰で3割方値上がりしている。公共施設の更新問題も検討されているがこれにも大きな費用がかかる。

<市 長> 公共施設の更新問題は、今、まず市民の皆さんに状況をお示ししている。意見を聞いて進めていきたい。

<谷口タ> 公共施設の更新問題では、インフラ（道路・橋・上下水道など）については含まれていないが、むしろそちらの方が費用がかかるのではないか。

<市 長> インフラについては、橋梁の問題等があるが、改修で寿命を延ばす方法なども検討している。

【情報公開の必要性】

<谷口ハ> 自治基本条例で示されている市民の「参画と協働」の「参画」ということをまず考えてほしい。

<八 村> 情報公開と市民をいかに市政に引き込んでいくかが重要。市民の声を聞きつつ、市長自身の意見をもっと出していくようにしてほしい。

<市 長> 情報公開は大切である。分かりやすく、大事なことは自分の足で出向いて、説明していきたい。全力で、鳥取市のために、鳥取市民の皆さんのために努力したい。

※ 市側出席者 : 深沢市長、羽場副市長、亀屋整備局長、秘書課長
「市民の会」出席者 : 八村会長、浦木事務局長、谷口肇組織部長、谷口隆秋広報部長